



金目川水系

# せせらぎ通信

## 夏休み金目川生き物観察会

8月1日(土)、毎年恒例となっているみずほ小学校と金目小学校の児童を対象とした生き物観察会を行いました。  
当日の参加者は子供(幼稚園児含めて)77名、保護者50名、中高生ユースボランティア10名、東海大学生32名、指導者金目川ネット19名、その他指導者15名、総勢200名を超え、大盛況に終わりました。

開始と同時に一斉に川に入る子供たち。  
早くも上手な子は生き物を捕まえ始めあちこちで歓声があがります。

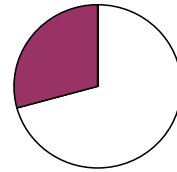


みんなが捕った生き物で、ミニ水族館ができました。



問1. たのしかったですか？

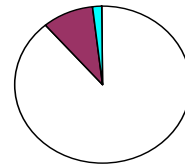
	人数
1.とてもたのしかった	44
2.たのしかった	18
3.あまりたのしくなかった	0
4.つまらなかった	0



- 1.とてもたのしかった
- 2.たのしかった
- 3.あまりたのしくなかった
- 4.つまらなかった

問2. 勉強になりましたか？

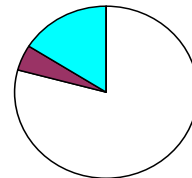
	人数
1.なった	55
2.どちらでもない	6
3.ならなかった	1



- 1.なった
- 2.どちらでもない
- 3.ならなかった

問3. 生き物はすきですか？

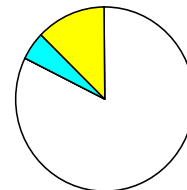
	人数
1.前からすき	49
2.どちらでもない	3
3.すきになった	10
4.きらい	0



- 1.まえからすき
- 2.どちらでもない
- 3.すきになった
- 4.きらい

問7. またこの観察会に来たいですか？

	人数
1.来たい	51
2.来たくない	0
3.行けたら来る	3
4.わからない	8



- 1.来たい
- 2.来たくない
- 3.行けたら来る
- 4.わからない

参加した保護者からのコメントを一部ご紹介します。

何度か参加させて頂いていますが、毎回大学生のボランティアの方が沢山子供達について見守ってくださるので安心しています。

おかげ様で充実した観察会が遂行出来て本当にありがとございました。  
このところのゲリラ雨で、川の流れが右に左に変わっている流れ筋に懸念をされていました。自然の力に驚きました。  
あんなにたくさんテナガエビがスシエビがヨシノボリがボウスハセがモクスカニがカゲロウがカワゲラがトビゲラが。

このことは子どもたちにとって驚異の体験でした。みんなが喜びいっぱいにしての川での姿は得がたい体験になって、今後に生きていくと確信しています。  
また、清流に澄むアユや回遊魚のエビ、カニ、ヨシノボリ、ボウスハセ、ウキゴリ、ヌマチチブ、そして、カゲロウカワゲラトビゲラが

金目川水系流域ネットワーク

代表 柳川三郎

- 2 -  
こんなに魚がいる

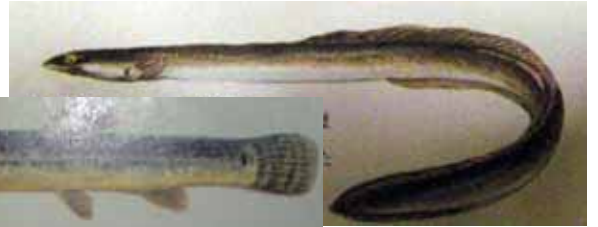
夏休み生き物観察会

府川 清



水は澄んでる  
きらきら光る  
青い空に  
白い雲が浮かんでいる  
絶好の日和になった  
会場に向かう私も  
ルンルン気分  
今年の夏は雨がよく降り  
水量も多い  
いつもの川筋が増水で  
すこし変わり  
心配していた  
観音さん前の 流れ  
観察会の当日は  
申し分ない状態だ  
スタッフで  
テントも張り終え  
準備は オウケイ

網とバケツをもった  
小学生たち  
小さい子には  
お父さんお母さんがつき  
東海大学の学生  
ボランティアの中学生も  
金目ふれあい広場に  
集まってきた  
子どもたち七、八人に  
スタッフ数名のグループに  
分かれ  
川に向かい  
魚捕りが始まった  
昨年成功した  
魚の捕り方がいい  
浅瀬で魚がひそんでいそうな  
石の集まりを探す  
その下流に子どもたちが  
七つの網を横一列に  
川底に並べる  
おとなやボランティアが  
上流から石の周りを足や手で  
ゴソゴソ バシャバシャと  
魚を追い出す



石をどかすこともある  
網の中に魚が逃げたのを  
見計らって  
いつせいに子どもたちが  
網を上げる  
網の中をのぞくと  
捕れた! と歓声を上げる子  
大きなハゼが 入ったからだ  
よく見ると  
なにか動いている  
小石やゴミのなかに  
小さな魚がいる  
初めての体験に  
感激している子もいる  
二匹も三匹も  
入っていることもある

つぎはどこにしようか  
周りを探して  
追い込み漁を繰り返す  
どの網にも

一匹も捕れないときもある

が  
バケツの中は魚が  
だんだん増えてくる  
バケツに  
手ごろな石を入れると  
魚たちは石の周りに集まり  
身を隠す

一時間近くもやっている  
と種類数のハゼの仲間  
ドジョウ 小ナマス  
スジエビ テナガエビ  
ザリガニ モクズガニ  
十匹以上入っている  
バケツもいくつもある

テントのそばに戻り  
ミニ水族館の水槽に  
魚を移し  
先生の説明に聞きいった  
ここは河口から  
上流約八キロメートル  
雨の少ない夏は  
海からここにくるまで  
途中の飯島で  
水田に全部取水される  
このおそろしい  
断流があつても  
ウナギ アユ ハゼ  
モクズガニなど  
川と海を行き来する生物が  
子どもたちの網に  
たくさん入った



ここは  
環境が保全されている  
この川には 水量がある  
初めて参加した  
大学の専門の先生が  
びっくりした感動を  
話してくれた

三十年四十年前  
私たちは誤りを犯した  
里川は ドブ川となり  
もくもくしたヘドロが  
流れていた  
魚は  
子育てが出来なかつた  
涙を流し死んでいった  
みんなの働きかけと  
水質改善の努力で  
ここまで自然が回復した  
魚 虫 生きものたち  
子どもたちよ  
おじさん おばさんも  
お兄さん おねえさんも  
いつまでも  
あなたのそばにいるから



# ユースボランティア 体験まとめ

大原高校 3年 N・Y

生き物観察会と水温調査  
をしました。

生きもの観察会は、地域の  
人たちが子どもに魚の名前  
等を教えていました。最近で  
は、地域との交流が少なくな  
っているのですが、このような交  
流は良いことだと思いまし  
た。

また、いろいろな生き物が  
生息していることがわかり、  
金目川の今の現状を調査し  
知ることができたのでよか  
ったです。

平塚学園高校 2年 W

金目川のボランティア活動  
では、小学生の子どもたちと川  
の魚の観察に行きました。

自分の知らない魚もあり、小学  
生とのふれあい、生きものにつ  
いてお互いに学び良い体験で  
ありました。

金旭中 2年 Y

生き物観察会では、小学生の  
面倒を見ながら、魚を取りまし  
た。

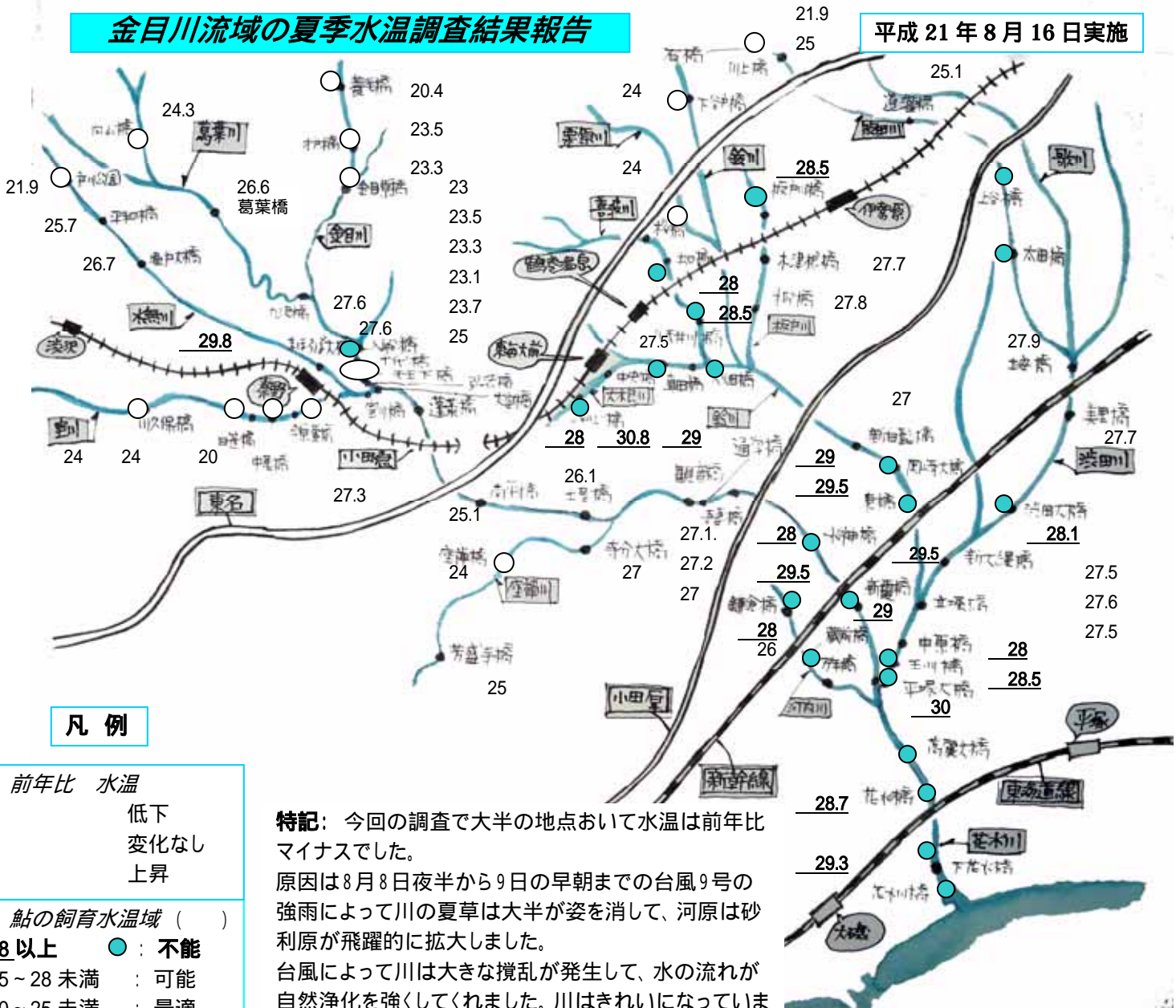
川に入り思ったことは、水が  
きれいだな」と思いました。  
小学生と触れ合っていくう  
ちに、僕も小学生の時はこんな  
にはしゃいでいたな」と思っ  
ました。

魚もたくさんとれて、小学生  
が喜んでいるところを見ると  
「楽しんでもらえてよかった」  
と思いました。

それとこんなにきれいな金  
目川を汚してはいけないと思  
いました。

## 金目川流域の夏季水温調査結果報告

平成 21 年 8 月 16 日実施



# 市民が結ぶ森と川と海のつながり

講演等のご案内  
平塚市共催事業

神奈川県において平成 19 年から、水源環境保全のために個人県民税の超過課税が導入されました。

そのおもな施策は森林・河川・ダム湖の現状と課題等です。

「安全な水」を供給の観点から、「森と川と海のつながり」について啓発活動を行い、水の大切さを浸透させて循環型社会の形成に寄与します。

\* 日時 平成 21 年 12 月 20 日 (日) 午後 1:30 ~ 4:45

\* 場所 「ひらつか市民活動センター」会議室  
JR 平塚駅南口から徒歩 2 分 JA ビルかながわ 2 階

\* 講演 「森・川・海をつなぐもの」

\* 講師 浜口哲一 (前平塚市博物館長、神奈川大学理学部特任教授)

\* パネルディスカッション

テーマ 森の保全、川の現状と課題、海の変化

パネラー 丹沢山塊の自然を考える会

里山をよみがえらせる会

金目川水系流域ネットワーク

桂川・相模川流域地域協議会

神奈川環境科学センター

## サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業への支援

東海大学付属相模高等学校 化学部の環境学習が 8 月 17・20・21・25 日の 4 日間 にわたって行われました。この環境学習は、(独) 科学技術振興機構の SSP 事業の一環として行われ、内容は同部の 部員 15 名が金目川の河川水を 実地に採水し、分析を行うとい う水環境に関する環境学習で した。BOD・COD・DO の分析に加 えて アンモニア性窒素・亜硝酸性 窒素・塩化物イオンの分析まで

行うという本格的な水質分析 の学習でした。この学習には、神奈川県環境 学習科学センターの研究職員 が専門的な指導を行いました。特に、21 日は夜の 7 時まで 同センターの実習室で分析を 行うという熱心さでした。金目川水系流域ネットワー クは、同センターの要請によ り、金目川の河川水の採取地の 選定や 20 日の 3 力所の採水 の実地学習に同行し上流域か

吃水域までの河川の湧水 や汚濁状況、水利用や生きも のの生態などの環境情報を 提供するなどの支援を行っ ました。また、最終日の 25 日には 部員 4 グループの行う発表 会に参加し所感を求められ ました。同 高校生の分析能力の高 さや水環境に対する観察力 の鋭さは目を見はるものが ありました。



注  
SSP 事業  
サイエンス・  
パートナー  
シップ・  
プロジェクト  
事業

### 川のある風景で心を豊に!

#### {金目川水系流域ネットワーク 会員募集}

豊かな自然と地域文化を子どもたちにつなげよう。

自然と人間との関係を改めて見直そう。

いろいろの分野で活動する団体や個人の交流を図りましょう。

川を総合的に調査して、川のより良いあり方を目指そう。

「これからの計画」

1. せせらぎ通信の発行
2. 金目川水系流域の夏・水温調査 (66 地点)
3. 金目川 夏休み 生き物観察教室  
中流 金目観音橋付近、小学生と共に
4. 金目川みて歩き (春・秋)
5. フォーラム (冬 1 月末から 2 月始め)
6. 各機関との共同事業、県環境科学センター  
平塚市

担当 (平塚市南金目 722-2、 & Fax 0463 - 59 - 2000)

柳川 三郎

編集後記

せせらぎ通信 25 号は新しく生まれ変わりました。 会員の有志が題字等考案し編集委員 (事務局) で決定いたし ました。

少しでも多くの人達に読んで知っていただく為に イメージチェンジを図りました。お気づきの点等御座いまし たら事務局まで御連絡ください。